

解答

《一》

問一 木

問二 B ト C ハ

問三 上へ伸びる植物は踏まれて折れてしまうため、上に伸びなくてよい雑草だけが太陽の光を独占できるから。

問四 人は植物を「高さ」で評価しがちで、雑草はどんな状況でも上に伸びようとすると勝手に思い込んでいるから。

問五 人も成績や偏差値などの「高さ」で評価されがちだが、成長を測る基準は様々であり、大切な価値は簡単には測れないところにあるのだから、一つの尺度にしばられない様々な生き方があるのだということ。

《二》

- | | | | | | |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| I | ① 体得 | ② 至難 | ③ 再興 | ④ 果断 | ⑤ 器量 |
| ⑥ | 赤貧 | ⑦ 均質 | ⑧ 正統 | ⑨ 応接 | ⑩ 考証 |
| ⑪ | 食傷 | ⑫ 共鳴 | ⑬ 異 | ⑭ 疑義 | ⑮ 照覧 |
| II | ⑯ 歴〔々〕 | ⑰ 往〔々〕 | ⑱ 延〔々〕 | ⑲ 千〔々〕 | ⑳ 由〔々〕 |

《三》

問一 a ハ b 口 c 木

問二 (1) 十二月のマラソン大会のレベル。
(2) 新に代わる朔の伴走者。

問三 二

問四 幼い少女が、自らのためにしてくれた行動で目が見えなくなった相手に一生懸命点字でメッセージを書き、勇気を出して会いに来てくれたのに、自分はその点字がわからず、年長者なのに何も行動を起こさうとせず目が見えなくなつた後現実から逃げ続けていた自分に気づかされたから。

問五 伴走者とは相手のペースに合わせて走り、目が見えないランナーを安全に確実にゴールに導く存在であるはずなのに、自分のペースで走り、朔にケガをさせてしまったから。

問六 自分にとって伴走者とは、自分の実力を超えたレベルを体験させることで、目が見えない自分を知らない世界に導いてくれる存在があるので、新こそが自分の伴走者にふさわしいと考えている。